

# 京都教区時報

Home Page <http://www.kyoto.catholic.jp>

3頁 司祭全体集会での講話 梅村司教

6頁 社会と共に歩む教会の事例

発行 京都教区  
責任者 村上透磨  
京都市中京区河原町  
三条上ル  
カトリック会館  
FAX  
075-211-3041  
「教区時報」宛と明記

点訳版「京都教区時報」(無料)  
ご希望の方は点訳ネット「レジナ」代表嶽崎(たけざき)裕子さんまで申込みください。  
TEL・FAX 0794-31-8601



今年の京都教区は、これまでの流れを受けて『日常からミサを生きる』というテーマに取り組み始めました。私たちの信仰生活をよりよく進めていくためにも、「福音宣教する共同体」に成長するためにも、特に、ミサを大切にしてこのミサこそが、キリストを囲む、生きた共同体を育てる最高の場、信仰生活の命、共信体を生かす活力源となりますよう

昨年は、福音宣教する仲間である「信仰共同体」について考え、体验する努力をしました。その中で、特に「子どもの信仰教育」をテーマに「共同体」として信仰を次世代に伝える使命を再認識しました。

今、わたしたちが教区をあげて取り組んでいます共同宣教司牧について、さらに深め、お互いの関わりが、より深いものになりますよう。

**2**  
**2004**

## 教区カトリック協議会

### 小教区規約指針、ブロック運営指針、教区 カトリック協議会のありかたについて

十月十八日（土）河原町会館六階ホールで行われた第十六回カトリック京都教区・教区カトリック協議会の内容を報告します。正式な議事録は各小教区・修道院に送付されます。

#### 議事

##### I. 司教今年のブロック訪問の途中経過について（司教）—省略—

#### II. 小教区規約作成のための指針について（司教）別冊子「共同宣教司牧を推進する小教区の規約を作りましょう」参照—省略—

II. 小教区規約作成のための指針について（司教）別冊子「共同宣教司牧を推進する小教区の規約を作りましょう」参照—省略—

III. 教区カトリック協議会のあり方について（司教）現在の五つの地区協議会代表者からなる教区協議会をブロック代表者の集まりに変え、十四ブロックの代表と地区的代表司祭の集まりとし、名称も教区宣教司牧評議会

会と変更する。

今まで、司教の意思が教区協議会から地区協議会、ブロック会議を経て各小教区に行き渡り、それに対する意見の汲み上げがなされるまでの過程の中で、非常に多くの会議が開催されてきたという煩雑さを避けるという意味と、ここ数年で成熟してきたブロックと教区が直接連携できることで、より活発な運営ができるのではないかと考えている。

地区協議会は今までどおり規約の共通化などは行わず、地区を形成する小教区全体の緩やかな統合体として、各地区的独自のテーマを取り組んで欲しい。

来年の四月から新しい体制に移行するために、来年の二月に開催される第十七回教区協議会で正式決定したい。四月に予定している教区宣教司牧評議会第一回の集まりのために、各ブロックの代表者が選出に予め取り組んで欲しい。

IV. 「共同宣教司牧ブロックの運営のための指針」（司教）  
ブロックの運営にも共通の動きが要請されるため、指針を作成したので、各ブロックでの周知をお願いしたい。

教区内のすべてのブロックで共同宣教司牧と運営を協議するため、ブロック担当司祭が主宰するブロック会議を開設するようにしていただきたい。

この会議は、すべての小教区代表者とブロック担当司祭で構成され、原則二ヶ月に一回開催する。

なお、ブロックで決定されたことが小教区でも行われるように各自が留意してもらいたい。

ブロックを担当する司祭団の集りも当然行われることをこの場で確認する。

ブロック会議を準備・運営するため、ブロック事務局とブロック会計には実務担当者を設け、会計には必ず監査役を設けること。

小教区のブロック代表者には、ブロックのことを知らない人やブロック会議で報告できない立場の人を選びないように留意して

質疑応答—省略—

質疑応答—省略—

V. 共同宣教司牧推進チームの次期メンバーの選出について（司教）これまでの選出方法である各地域三名（男性信徒・女性信徒・青年）から、各ブロックより一名選出する方法に改める。来年一月（会議では四月と報告されたが、その後一月に変更）の次期（第二期）メンバー選出からブロック担当司祭団と地区長司祭が人選を協議し、司教に推薦してもらうこととする。ただし、この推進チームメンバーは、ブロックの役員（小教区の評議員は除く）との兼任を

する。たとえ、この推進チームメンバーは、司教直属のメンバーとなるので、各ブロックの人事においてご配慮をお願いする。

推進チームは、司教直属のメンバーとなるので、各ブロックの人事においてご配慮をお願いする。

VI. 「京都教区国際ファミリーデー」の開催について  
今年（二〇〇三年）、三重地区で行つたが、今後五つの地区を毎年巡回にして、開催する。その順番は後日決定する。

次回第十七回教区カトリック協議会（最終）は、二月二十八日（土）十四時 河原町会館



## これから信徒の奉仕職 共同宣教司牧との関係において

横浜教区司教 梅村 昌弘

昨年十一月二十七日メリノールハウスで行われた京都教区司祭全体会集会で行なわれた、梅村司教の講話の一部を紹介します。

### 信徒、修道者、司祭による協同

洗礼と堅信の秘跡を受け、キリストの救いの使命に参与しているすべてのキリスト信者(信徒、修道者、司祭)は、キリストの祭司職、預言職、王職にあずかる者として教会の唯一の使命を互いに協働して果たします。ラテン語のコムニオは「共に、一緒に」を表すconと「任務、責任、義務」を意味する munus という「一つの単語

が合成されてできたことばだと解釈する人もいます。この意味において教会はそれぞれのメンバーが互いにそれぞれの任務、責任、義務を分かち合って、ひとつの使命を果たす共同体(community)であると言えます。

### カリスマの多様性

「聖霊は、洗礼を受けたすべての者に位階的な違いやカリスマのたまものを与え、それぞれ別な方法で、積極的に共同責任を担う者となるよう招いています」。聖霊は教会を「聖職位階のたまものと聖霊の種々のたまものとをもって導く」と言っています。叙階され聖職位階に属する人々の権威は、聖霊から生まれ、カリスマによって支えられています。しかし、教会のカリスマは、叙階のカリスマだけをもってすべてとされるものではありません。そのことについてパウロは「賜物(charisma)

にはいろいろありますが、それを与えるのは同じ靈です。務め

### キリスト信者の交わり

(diakonia) にはいろいろあります、それをお与えになるのは同じ主です」(一コリント12・4)と語っています。カリスマの多様性は、奉仕の多様性に反映され

おり、それらが一つの固有な目的とすれば、教会の建設という一つの目的に向かっているのです。

教会は、いろいろな賜物をもつ多くの人々がそれぞれ互いに自分の賜物を分かち合うこと(communion)によって建てられています。

その意味で、教会は「交わりの教会」と呼ばれます。使徒書においても「あなたがたは、それぞれ、賜物を授かっているのですから、神のさまざまな恵みの善い管理者として、その賜物を生かして互いに仕えなさい」(ペトロ4・10)

と勧められています。司牧者は、信徒のカリスマに対して、聖霊の働きに対し、深い尊敬と注意を払いながら、それらを識別して行かねばなりません。司牧者に期待されているのは「靈を消すことではなく、すべてを試し、よいものを保つこと」です。

共同宣教司牧に欠かすことのできない信徒奉仕者の養成も、單に司祭召命の減少、あるいは司祭の高齢化を理由になされるべきものではなく、今述べたような信徒のもつキリスト者としての尊厳と働きのうえでの平等性に基づいて進されなければなりません。

聖職者を中心主義時代の産物とも考えられる、ひとつ教会にひとりの司祭という従来型の小教区制度については、すべてのキリスト信者の交わりという観点からも見直されるべきです。現在いろいろな教区で「共同宣教司牧」が始まっていますが、単なる司祭不足を解消するための一手段のように考へられるべきものではありません。むしろ、すべてのキリスト信者の交わりという教会の本質を実現するための制度と考えるべきでしょう。ひとりの司祭ではなく、複数の司祭が、修道者、信徒とともに、それぞれの奉仕職(mission)をもつて協働して教会の使命を果たしていくことが求められます。

# 講座案内

福音センター  
ニュース

## 痴呆と人間の尊厳（講演会）

日 時：2004年3月14日（日） 1：30～4：00

場 所：河原町教会地下ホール

講 師：丸山公子氏（滋賀文化短期大学専任講師）

痴呆のお年寄りと長年の関わりをもつ講師が、ふだんはうかがい知ることのできないお年寄りの内面世界に触れ、そこに輝き出るいのちの豊かさに出会う希望と喜びを語ります。

## 自己発見から神へ（4回シリーズ）

日 時：3月10日・24日、4月7日・21日 1：30～4：00（毎回水曜日） 2,000円

場 所：福音センター

講 師：Sr.安井昌子

関わりは避けることのできない一生の仕事。中でも自分との関わりは一生の課題です。おごることなく、卑下することなくあるがままの自分に向き合い、耳を傾け、本来の自分に気付いていく喜びの旅をしてみませんか。

## 絵本はいいなあ（毎月1回）

日 時：第1火曜日 10：30～12：00 初回は2月3日（5月、8月休み） 各回500円

場 所：福音センター

講 師：村上透磨師

古今東西の児童書の中に福音のこだまを読み解きます。どなたでもご参加ください。

## 沈黙の祈りへ（5回シリーズ）

日 時：2月18日、3月3日・17日・31日、4月14日 1：30～4：00（毎回水曜日） 2,500円

場 所：福音センター

講 師：Sr.中山真里

「典礼の祈りでは、わたしたちが神に話します。沈黙の祈りでは、神がわたしたちに語られます」（マザー・テレサ）。祈りを学び、ともに祈り、神の語りかけに耳を傾けるひと時を。

問い合わせ ☎604-8855 京都市中京区壬生淵田町26 カトリック福音センター

Tel 075-822-7123 Fax 075-822-7020 E-mail [fukuin@kyoto.catholic.jp](mailto:fukuin@kyoto.catholic.jp)



## 使徒の教え、相互の交わり

パンを裂くこと、祈ることに熱心であった。

(使徒行録 2・42)

### 「ひとつになろう キリストが まんなか」研修会感想文

福音センターでは去る11月22日～23日に、「ひとつになろう キリストが まんなか」を表題に、教会共同体の一致について研修会を行いました。これは昨年度の司教年頭書簡「信仰共同体を体験しよう」に沿って企画されたもので、半年の準備期間を経て実現にこぎつけました。企画に際しては「今の現実」から出発することを最重視し、三名の信徒による発題と体験発

表、それを受けた分かち合い、そしてまとめの講話という形をとりました。その中から、教会の一致は目に見える現象を超えたところにあること、そして一致を目指して分かち合い、祈り合う過程そのものが共同体づくりであることを、参加者一人ひとりが心に刻んだ二日間でした。

◆根底から信仰の見直しを迫られ、せき止めているものが徐々に流れ始めたような研修会でした。自分の無力さを捧げ、いただいた信仰の尊さを思いました。罪から解放された溢れる喜びと感謝を忘れず、「祈りは世界を救う」と切願する毎日です。  
(津教会・小野幾子)

◆三人の信徒の体験発表に感動しました。分かち合いでは、今の教会には祈りがとても必要と思いました。「ひとつになろう キリストが まんなか」。いいテーマでしたね。イエス様を中心に信徒が喜びにあふれ、教会が輝いていれば、イエス様に出会っていない人たちは、教会はなんて素晴らしい所なのかと集まって来られるのではと思います。福音宣教はまず教会のうちからのように感じます。

(鈴鹿教会・谷川かず子)

◆めぐみの二日間でした。福音化しきれていない現在の共同体の姿は、とりもなおさず初代教会の有様であったことが印象的でした。にもかかわらず、人の心のヘドロを浄化し、新たにしてくださる聖靈のすごい力が教会にあふれ、秘跡を通してわたしたちに注がれていることの希望と喜びを少しだけあかしませていただきました。  
(山科教会・吉岡千代子)

◆みんなの心と心を寄せ合って祈る喜びを味わい、講話や信仰体験の分かち合いを通して、信仰共同体に与えられる「み言葉と秘跡のめぐみ」を深く実感しました。「わたしの信仰」という小さな枠の中に、教会に与えられる神の無限のめぐみをはめ込んでしまっている自分のエゴを見つめることができてよかったです。キリストの教会に与え続けられる神のめぐみの豊かさを確認し、福音を伝え続ける大切さを学びました。

(唐崎教会 Y.I.)

**社会と共に歩む教会の事例****奈良少年刑務所クリスマス会  
マジック公演・聖歌隊訪問  
登美ヶ丘教会**

「神は、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。」  
(ヨハネ三章十六節)

このすばらしい神の愛の証しであるキリストの誕生というクリスマスの喜びを、苦しみの暗闇の中にある若者たちに希望の光として伝えにく手伝いをしてほしいと、当教会に頼んでこられたのは、現奈良南部ブロック共同宣教司牧協力司祭ジョン・ヒル神父様でした。

ヒル神父様は、奈良少年刑務所で教説師としてのお仕事を約四十年間もなさつていて、その長きにわたり少しお時間解き放たれて笑顔を見せたり、改悛の情からか目に涙を浮かべたり、受刑者の皆さんの心にキリストの希望の光が降り注ぐようです。

クリスマスは希望の種をまく大切な機会です。そのお手伝いをすることで、私たち信徒も大きなクリスマスの喜びをいただいているされています。

奈良県の北部にあるので、過去には北部ブロックの他の教会の方が訪問され、クリスマスの聖劇を披

露されたりもしていったようですが、当教会には、すばらしい手品の腕をもった室谷さんご夫妻がおられるのでマジック公演と、歌の好き

な信徒が集まって聖歌隊を結成し、一九九六年から隔年で今までに四回訪問しています。他にもバンド演奏やピアノ・フルート・声楽のアンサンブルなどもプログラムに入ったり、昨年にはヒル神父様から教説師のお仕事を引き継がれた四日市サレジオ志願院の濱崎敦神父様と訪問し、志願生と共に混声合唱も披露しました。毎回最後に、受刑者の皆さんと一緒にクリスマスの聖歌を大合唱し、クリスマスの喜びをわかちあいます。この全員合唱では、毎日の厳しい生活から少しの時間解き放たれて笑顔を見せたり、改悛の情からか目に涙を浮かべたり、受刑者の皆さんの心にキリストの希望の光が降り注ぐようです。

刑務所は般若寺の近くにあり明治時代に建てられた古い建物で、原則として二十歳から二十五歳までの若者が収容されています。クリスマス会は、毎年開かれていて、奈良県の北部があるので、過去に

**社会と共に歩む教会の事例****薬物依存症からの回復  
を目指す人たちと共に  
津教会**

三重からのニーズに応えるために三重ダルクを開設したい、と名古屋ダルクの方たちが来津されたのは、五年前。我が家の一軒隣にあった空き家が、粗末ながら居住空間として整えられていくのを見ながら、ネリグ司祭と「家賃の一部くらい応援できるといいでね」と話し合ったのは、賃貸契約に立ち合ったかかわりからでした。

毎月二百円出してくれる人が三十数人あれば、六万五千円という家賃の一割程度の応援ができる、

今思えばなんとも無知な算段をしたものです。しかし、ダルクを

ひと月維持運営するには、その家

賃の十倍の経費が必要であり、ど

こにも財源はないのだ、と知るの

に時間はかかりませんでした。

薬物依存症という病気に罹った

人たちの回復施設。世にあるさまざま

なハビリテーション施設は、国や自治

体、或いは法人という力強い基盤

の上に設立されており、施設費・

人件費・医療費などとして三重ダ

ルクの何倍もの経費が予算化されています。しかし、ダルクは何もありませんでした！ 入寮希望者の多くは、この世の力を全て失った「裸の隣人」たちです。「何か」に導かれて、ようやくここにたどり着いた無一物の「隣人」を無条件に迎え入れ、居場所を提供する、そのダルクの経費は、毎月少なくとも数十万円、時には百万円前後にもなります。そしてその九九%は、市民からの任意の寄付、とう非常識。しかし、ダルクはそれを、「不安定なこと」とせず「恵み」と受け止めます。

そんなダルクの姿は「無力であるからこそ神を知る」ということの実現であり、神の恵みを信じるといいながら虚飾の衣を手放せない私自身の確認でもありました。また徹底したJUST FOR TODAY！ 明日の糧を神様だけに依存する、そんな信仰の原点も、ダルクは日々見せてくれます。

ダルクは、私が「支援する対象」などではなく、私に神の愛を実感させてくれる靈的存在として、私の近くに、この社会に、今日、存在しています。感謝！

(宮西いづみ)

(村澤敦子)

## 何かお手伝いが出来れば

久居教会

私の母は二年前から老人ホームに入所させて頂いています。グループホームといって、七、八人が、大きな部屋で皆なと一緒に共同生活をしています。最新の老人ホームだそうです。一人ひとりの個室があり、朝、食堂に行き、みんなで食事をして後片付けを手伝う人、元気な人は朝昼夜と食事の準備もされます。今まで自分の家に居た時と同じようにとのことだそうです。毎日、一日を大きな居間で皆さん自由に自分の好きなことをしているらっしゃいます。新聞を見ている人、テレビを見ている人、好きな編み物をしている人、居眠りをしている人など、皆さん昼間は楽しんですごされます。

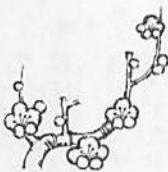
私は月に一度くらいですが、夕食後ホームに行き、皆さんと一緒に話をしたりして、日本の昔話の本を読んであげます。「語り部本」というのがあり、昔の紙芝居のように話してあげます。あとで皆さんあまり話されないことも話してくださいり、昔の話などよく話

してくださいます。  
私もなるべく皆なが心を開いて話してくだされば、と思っているので嬉しいです。時には息子のこと、お嫁さんのこと、また孫のこと、今まで家に居た時のことなど話してくださり、心を開いて話してくださるので、ああ、月に一度来て、少しは心なごんでいただけたのかな?と思いつくくなることがあります。

先日、一人の盲人の方に、私は菊の花を「この花、美しく、大きさも人の顔くらいあり、色もきれいですよ」と話してさわらせてあげました。その方は小さな声で祈りをしていらっしゃるんです。神様、私が天国に行ったら、神様と一緒にこの美しい花をこの目ではっきり見ることが出来ますように……と。私は何も言えず、そっとあとずさりしました。

カトリックも小教区でこのような「グループホーム」があればいいなと思う、今日この頃です。

(一志三七栄)



## 京都教区・外国語ミサ

### 英語ミサ(ENGLISH)

- SAIN CHURCH  
西院教会 ~PAG~ASA COMMUNITY  
*Every Sun. 3 p.m.*
- FRANCISCAN HOUSE  
*Every Wed. 3 p.m.*
- NISHI MAIZURU CHURCH  
*Every First Sun. 3 p.m.*
- KUSATSU CHURCH  
*Every Fourth Sun. 2 p.m.*
- NARA CHURCH  
*Every Last Sun. 3 p.m.*
- YAGI CHURCH  
*Every Third Sun. 2 p.m.*
- KORIYAMA CHURCH  
*Every Wed. 3.30 p.m.*
- TSU CHURCH  
*Every Second Sun. 2 p.m.*
- YOKKAICHI CHURCH  
*Every Third Sun. 1 p.m.*
- SUZUKA CHURCH  
*Every First Sun. 2 p.m.*
- MATSUSAKA CHURCH  
*Every first Sun. 2 p.m.*

### 韓国語ミサ(한국어 미사)

- 京都コリアン・カトリックセンター  
第1・2・3日曜日 午前10時

### スペイン語ミサ(ESPAÑOL)

- Iglesia de FUSHIMI  
*Segundo Domingo del mes 2 p.m.* 第2日曜日、PM 2:00
- Iglesia de KUSATSU  
*Tercer Domingo del mes 2.30 p.m.* 第3日曜日、PM 2:30

### Iglesia de NAGAHAMA

長浜教会  
Tercer Domingo del mes 2 p.m. 第3日曜日、PM 2:00

### Iglesia de YAGI

大和八木教会  
Primer Domingo del mes 2 p.m. 第1日曜日、PM 2:00

### Iglesia de NISHI YAMATO

西大和教会  
Segundo Domingo del mes 3 p.m. 第2日曜日、PM 3:00

### Iglesia de SUZUKA

鈴鹿教会  
Tercer Domingo del mes 2.30 p.m. 第3日曜日、PM 2:30

### Iglesia de KAMEYAMA

亀山教会  
Tercer Domingo del mes 11.30 a.m. 第3日曜日、AM11:30

### Iglesia de TSU

津教会  
Cuarto Domingo del mes 2 p.m. 第4日曜日、PM 2:00

### Iglesia de YOKKAICHI

四日市教会  
Cuarto Domingo del mes 12 a.m. 第4日曜日、AM12:00

### Iglesia de UENO

上野教会  
Tercer Sábado del mes 7.30 p.m. 第3土曜日、PM 7:30

### ポルトガル語ミサ(PORTUGUES)

- Igreja paróquial do KUSATSU  
*Segundo Domingo do mes 2 p.m.* 第2日曜日、PM 2:00
- Igreja paróquial do HIKONE  
*Quarto Domingo do mes 11 a.m.* 第4日曜日、AM11:00
- Igreja paróquial do YOKKAICHI  
*Primer Segundo Domingo do mes 4 p.m.* 第1・2日曜日、PM 4:00
- Igreja paróquial do SUZUKA  
*Todos los Domingos do mes 6 p.m.* 每週日曜日、PM 6:00
- Igreja paróquial do KAMEYAMA  
*Primer Tercer Domingo do mes 11.30 a.m.* 第1・3日曜日、AM11:30
- Igreja paróquial do UENO  
*Tercer Sábado do mes 7.30 p.m.* 第3土曜日、PM 7:30
- Igreja paróquial do HISAI  
*Tercer Domingo do mes 3 p.m.* 久居教会  
第3日曜日、PM 3:00
- Igreja paróquial do MATSUSAKA  
*Quarto Domingos do mes 7 p.m.* 松阪教会  
第4日曜日、PM 7:00

お  
知  
ら  
せ

ブロック・小教区から

福音センターから  
◆養成コース▼4ページをごらん

下さい

青年センターから  
◆青年セントターから

◆カトリック青年連絡協議会in東京▼ネットワークミーティング7日(土)～8日(日)▼連絡協議会8日(日)～9日(月)

教区委員会から  
◆聖書委員会▼聖書深読28日(土)

10時 奥村 豊師 河原町会館六階 費用二千五百円(昼食代を含む)、持参品 聖書・筆記用具・ノート(お申し込みは三日前までに)

◆典礼委員会▼教会の祈りと聖体贊美式・主日のミサ 第一日曜日17時半 河原町教会

地区かから  
◆京都南部地区▼11月3日ウォーカソンの募金総額は十二月十五日現在で、〇一四、五三三円でした。

ご協力ありがとうございました。  
◆滋賀カトリック協議会▼例会15日(日) 13時半 大津教会

教育関係施設から  
◆京都暁星高等学校▼卒業式27日(金)

◆京都カタリナ女子高等学校▼卒業式21日(土)

◆聖母学院中学・高等学校▼高校

◆西院教会▼ミサと講演会 イエス像を学ぶ「イエス様ってだれ」8日(日) 10時半 本田哲朗師

◆京都コリアンカトリックセンター▼韓国カトリックの聖地を巡る旅

4月19日(月)～4月22日(木)募集人員約20名、費用約九万五千円 問合せ電話075(841)5964 FAX075(822)2631 Sr.マリア朴、金芳秀

◆修道会から  
◆聖ドミニコ女子修道院▼みことばを聴こう「神と人との記憶—ミサの根源—」15日(日) 9時 講師 米田彰男師 対象 青年男女会費五百円▼みことばを聴こう3月6日(土) 14時 「わたくしといふ現象は」～宮沢賢治の宗教意識について 講師 ボグナ・ヤンコスカ氏会費三百円▼申込み電話075(231)2017 Sr.庄子

写真右から  
Sr.野元  
Sr.安井  
Sr.ジョン・コンラッド  
Sr.桂川  
Sr.加藤  
Sr.斎藤



こんにちはシスター

ノートルダム教育修道会 唐崎修道院

唐崎修道院

六一年にアメリカから来日して、日本における黙想指導の先駆者として、今も個人やグループのワーキショップを開き靈的指導に全力を尽くしています。Sr.安井は、主にカトリック福音センターへ毎日通い、信徒養成に励んでおりま

す。Sr.桂川は、黙想の個人必要に応じて唐崎で行われる個人黙想や、ワークショップのヘルパーもしています。Sr.桂川は、黙想の管理や、訪問者のお世話の傍ら週に一日、のぞみの園(老人ホーム)で奉仕しています。Sr.本は、瀬田幼稚園で園児たちに神様のお話をしたり、その母親や、先生たちに聖書を通して神様の愛とよるこびを伝えるよう努めています。

Sr.斎藤は、長年の経験を生かし、毎日おいしい食事を作っています。Sr.加藤は、黙想される方々や共同体の姉妹に大変喜ばれています。Sr.加藤は、修道院の担当者ですが、現在は会員の生涯養成のために奉仕しています。

唐崎修道院は、「主は私を青草の野に休ませ、憩いの水辺に伴い魂を生き返らせてください。」(詩篇23・2-3)のことばの通り、多くの方々が魂の憩いを求めて全員津々浦々から来院され、黙想のためを利用されています。

唐崎修道院は、西に比叡山を背に東に琵琶湖を臨み大変景色の良いすばらしい環境にあります。一度お出でになれば必ずまた、来なくなること請け合いで。

最初一九七七年に黙想の家として開かれ、一九八〇年四月に建築会社の保養所を譲り受け修道院が開設されました。その後一九九二年に現在の建物に改築されました。

現在六名の姉妹が、修道会の目的である、人間の可能性を開花させるためのあらゆる教育的活動を通して、神様に奉仕しております。

唐崎修道院は、「主は私を青草の野に休ませ、憩いの水辺に伴い魂を生き返らせてください。」(詩篇23・2-3)のことばの通り、多くの方々が魂の憩いを求めて全員津々浦々から来院され、黙想のためを利用されています。

日本における黙想指導の先駆者として、今も個人やグループのワーキショップを開き靈的指導に全力を尽くしています。Sr.安井は、主にカトリック福音センターへ毎日通い、信徒養成に励んでおりま

す。Sr.桂川は、黙想の個人必要に応じて唐崎で行われる個人黙想や、ワークショップのヘルパーもしています。Sr.桂川は、黙想の管理や、訪問者のお世話の傍ら週に一日、のぞみの園(老人ホーム)で奉仕しています。Sr.本は、瀬田幼稚園で園児たちに神様のお話をしたり、その母親や、先生たちに聖書を通して神様の愛とよるこびを伝えるよう努めています。Sr.斎藤は、長年の経験を生かし、毎日おいしい食事を作っています。Sr.加藤は、黙想される方々や共同体の姉妹に大変喜ばれています。Sr.加藤は、修道院の担当者ですが、現在は会員の生涯養成のために奉仕しています。

唐崎修道院は、「主は私を青草の野に休ませ、憩いの水辺に伴い魂を生き返らせてください。」(詩篇23・2-3)のことばの通り、多くの方々が魂の憩いを求めて全員津々浦々から来院され、黙想のためを利用されています。

卒業式14日(土)

◆日星高等学校▼卒業式23日

◆ノートルダム女学院中学高等学校

◆洛星中学校・高等学校▼高校卒業式7日(土)

◆聖母教育文化センター▼日曜巡礼の旅「浦上キリシタン流配の地」

◆在島取17日(土)~8日(日)集合JR京都駅7日10時半指導者三俣俊二名誉教授費用二万五千円程度▼聖書講座2日、23日講師Sr安藤敬子▼聖書講座6日、20日、27日講師Sr安藤敬子▼聖書講座3日、10日、17日場所聖母女学院香里セミナーハウス(643)23320

◆コーエチエレステ▼第二、第四木曜日河原町会館六階ホール

◆在世フランシスコ会▼京都兄弟会集会14日(土)13時半フランシスコの家

◆フランシスカンズ関西▼例会28日(土)13時半フランシスコの家

◆聖ヴィンセンティオ・ア・パウロ会▼河原町協議会8日(日)▼京都中央理事会22日(日)

◆二金会▼13日(金)西陣教会糠みその会▼例会26日(木)19時45分九条教会

◆レジオ・マリエ▼15日(日)13時半河原町会館六階ホール

◆心のともしび2月番組案内▼テレビ主な放送内容(2月1日放送予定)開業ナースの草分け的存在の村松さんに在宅看護に賭けるナースの心意気を語っていただく。▼

◆おでんとうさんの会▼27日(金)13時西院教会

◆カトリック聴覚障害者の会京都グループ▼手話ミサ27日(金)11時河原町会館六階ホール

◆京都カトリック混声合唱団▼練習

## 諸施設・諸活動から

14時、28日(土)19時河原町会館六階ホール	習日8日(日)14時、22日(日)
◆京都キリスト研究会▼定例会ホール	◆聖書の集中構造(上)旧約篇
◆在世フランシスコ会▼京都兄弟会集会14日(土)13時半フランシスコの家	◆聖書の集中構造(下)新約篇
◆コーエチエレステ▼第二、第四木曜日河原町会館六階ホール	◆新・聖書の集中構造
◆在世フランシスコ会▼京都兄弟会集会14日(土)13時半フランシスコの家	(ヨルダン社)
◆フランシスカンズ関西▼例会28日(土)13時半フランシスコの家	森彬著
◆聖ヴィンセンティオ・ア・パウロ会▼河原町協議会8日(日)▼京都中央理事会22日(日)	『聖書の集中構造(上)旧約篇』
◆二金会▼13日(金)西陣教会糠みその会▼例会26日(木)19時45分九条教会	『聖書の集中構造(下)新約篇』
◆レジオ・マリエ▼15日(日)13時半河原町会館六階ホール	『新・聖書の集中構造』
◆心のともしび2月番組案内▼テレビ主な放送内容(2月1日放送予定)開業ナースの草分け的存在の村松さんに在宅看護に賭けるナースの心意気を語っていただく。▼	(ヨルダン社)
◆おでんとうさんの会▼27日(金)13時西院教会	良書紹介
◆カトリック聴覚障害者の会京都グループ▼手話ミサ27日(金)11時河原町会館六階ホール	

森彬著  
『聖書の集中構造(上)旧約篇』  
『聖書の集中構造(下)新約篇』  
『新・聖書の集中構造』  
(ヨルダン社)

良書紹介

今日は絵本から離れて、聖書の読み方について。聖書の意味の伝達は、語句や文のみに留まらず、構造もまた、その役割を果たすのです。聖書の形態自体が啓示ともなり得ることを見落としてはなりません。近年この構造を通してなお豊かに伝えられる、聖書のメッセージに注目し始めました。

構造それ自体が、一つの福音のメッセージを伝えているのでそれを解説してくれるのが、この三冊の本。二九三号に『三本の木』といふ絵本を紹介し、これはマタイの構造を思われる絵本だと書い(イエスの誕生物語と神の国誕生物語)と、二十六章(二十章)受難・復活・昇天)。この二つの個所を対照する時、大切なメッセージがひそんでいる。マタイによれば、一章(四章)の出来事を理解しようとすれば、二十六章(二十八章)の出来事を理解しなければ、その意味を説明し切れないと考えている。

(その逆もまた真)  
構造は、メッセージの内容を深めて、私たちに語りかける。

A誕生と公生活の始まり  
B祝福と天国に入る赦し  
C権威と招き  
D弟子の派遣  
Eこの世の者による拒否  
F天国のたとえ話(核)  
G弟子による告白  
H死と復活  
I天國の到来  
J福音と天国の到来  
K死と復活  
L福音と天国の到来  
M死と復活  
N福音と天国の到来  
O死と復活  
P福音と天国の到来  
Q死と復活  
R福音と天国の到来  
S死と復活  
T福音と天国の到来  
U死と復活  
V福音と天国の到来  
W死と復活  
X福音と天国の到来  
Y死と復活  
Z福音と天国の到来

これを解説してくれるのが、この三冊の本。  
二九三号に『三本の木』といふ絵本を紹介し、これはマタイの構造を思われる絵本だと書い(イエスの誕生物語と神の国誕生物語)と、二十六章(二十章)受難・復活・昇天)。この二つの個所を対照する時、大切なメッセージがひそんでいる。マタイによれば、一章(四章)の出来事を理解しようとすれば、二十六章(二十八章)の出来事を理解しなければ、その意味を説明し切れないと考えている。

(その逆もまた真)  
構造は、メッセージの内容を深めて、私たちに語りかける。

マタイは次のような構成であります。(以下森氏による)  
1. フランシスコ会誌マタイ福音書(分冊)にくわしく述べられて  
いるが)  
2. タイ書を表したと説明されてい  
る。

